

参考資料

(都内の結核病床の現状等)

※東京都結核対策技術委員会（第1回）資料等を再掲

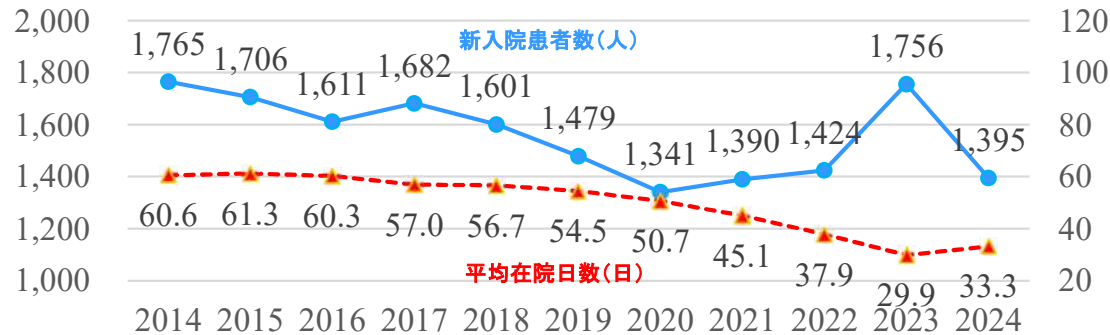
都内の結核病床の現状分析

都内の結核病床の状況	2024
新入院患者数（人）	1,395
平均在院日数（日）	33.3
在院患者延数（人）	45,750
基準病床数（床）	216
結核病床を有する病院	15
結核病床数（床）	347
病床使用率（％）	38.5%

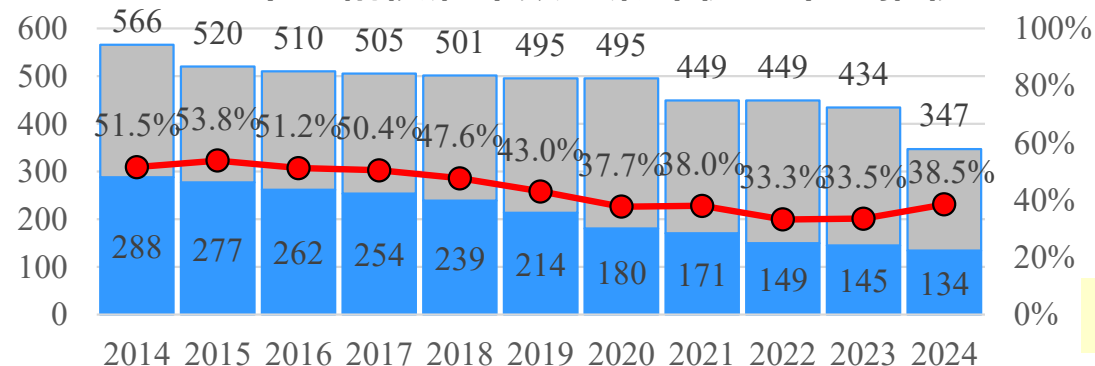
（注）職域分を含む

（注）慈恵第三病院
結核病床27床廃止
（令和6年度末）以前

過去10年の新規入院患者数と平均在院日数の推移



過去10年の結核病床数と病床使用率の推移



■在院患者数の減少
結核罹患率の低下により減少傾向

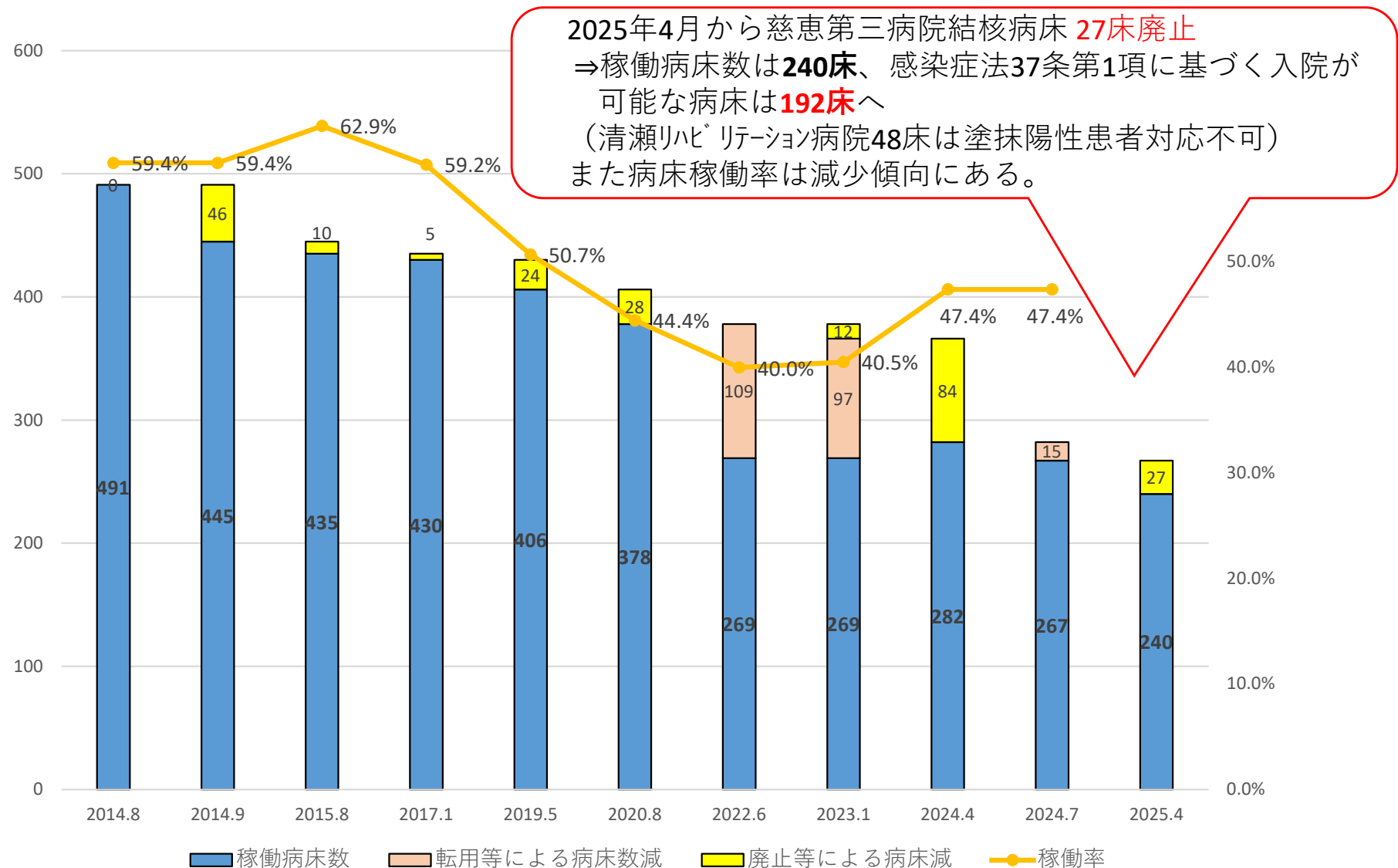
■平均在院日数の減少
結核病床を有する医療機関の経営悪化
在院患者延数減少と病床使用率低下による収入減

■結核病床数の減少

- 精神疾患、透析、小児など専門的な医療が必要な結核患者の治療は、診療経験のある一部の結核指定医療機関に集中している。
- 合併症等、専門的医療が必要な結核患者の対応可能な医療機関が限られ、入院調整が困難となるケースがある。
- 入院中に日常生活動作(ADL)が低下した高齢患者等は、介護福祉施設等の受け入れが困難であり、転院先が調整できないまま入院が長期化し、病床の有効活用が難しい。
- 結核患者を受け入れる病床の不足あるいは過剰について現状を把握し、適切な病床運用について検討し、行政的医療としての結核医療体制を維持・確保する必要がある。

都内の結核病床の現状

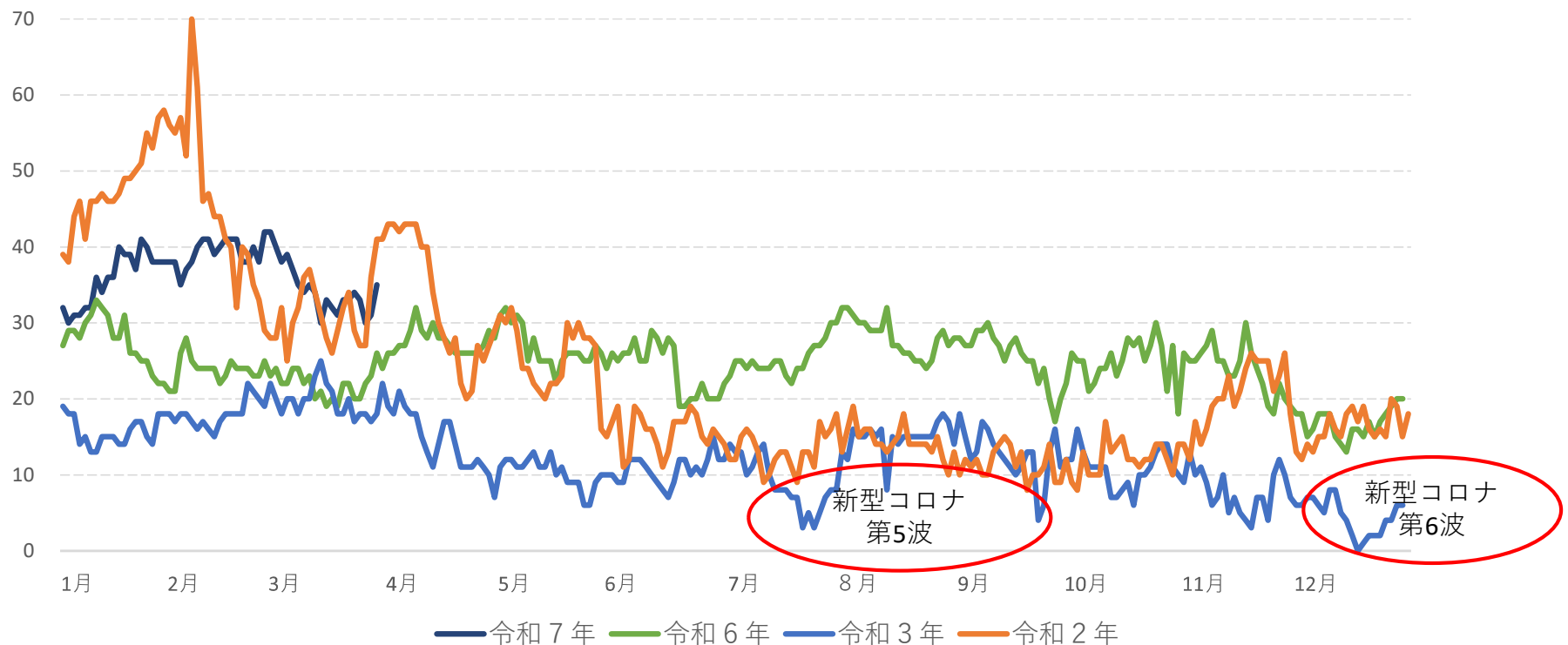
2014年～2025年の結核病床推定稼働率および稼働病床数の推移（職域分は除く）



都内の結核病床の現状

空床状況報告（公益財団法人東京都結核予防会が各病院からの報告を取りまとめて毎日各保健所へメール送付）にもとづく入院可能病床数

東京都内結核病棟の入院が可能な空床数※
（2020年～2021年、2024年～2025年3月31日）



※令和2年3月から令和6年12月まで国立国際医療センター、令和2年4月から令和6年12月まで都立多摩総合医療センターがデータに含まれていない。令和2年から令和7年を通して結核病床を持つ医療機関のうち、都立小児総合医療センター、虎ノ門病院は含まれていない。

- コロナ禍においては急激に空床病床数が減少した。
- 令和6年以降は年間を通して、20～30床程度の受け入れ可能な結核病床がある。

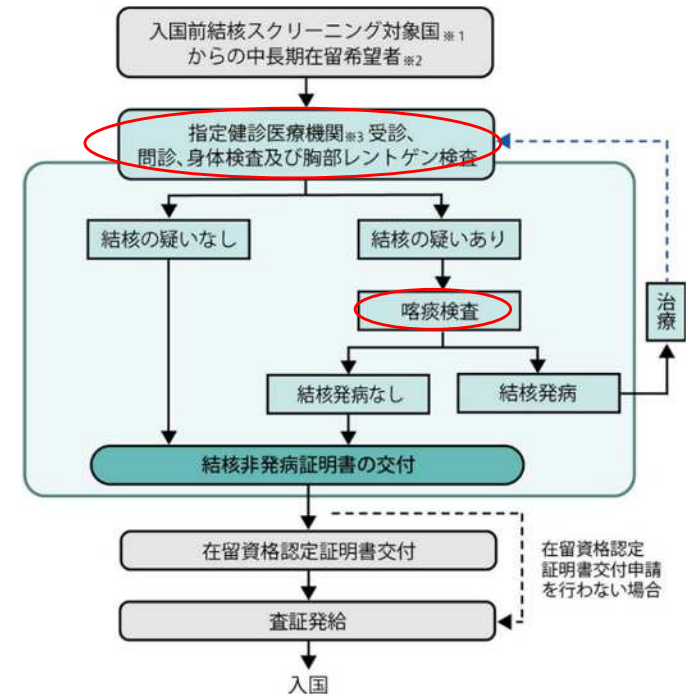
入国前結核スクリーニング (JPETS)

- 対象国から日本に入国・**中長期間在留**しようとする者に対して、入国前に指定健診医療機関において胸部レントゲン検査等を実施し、**結核を発病していないことを証明する資料の提出を求める**仕組み

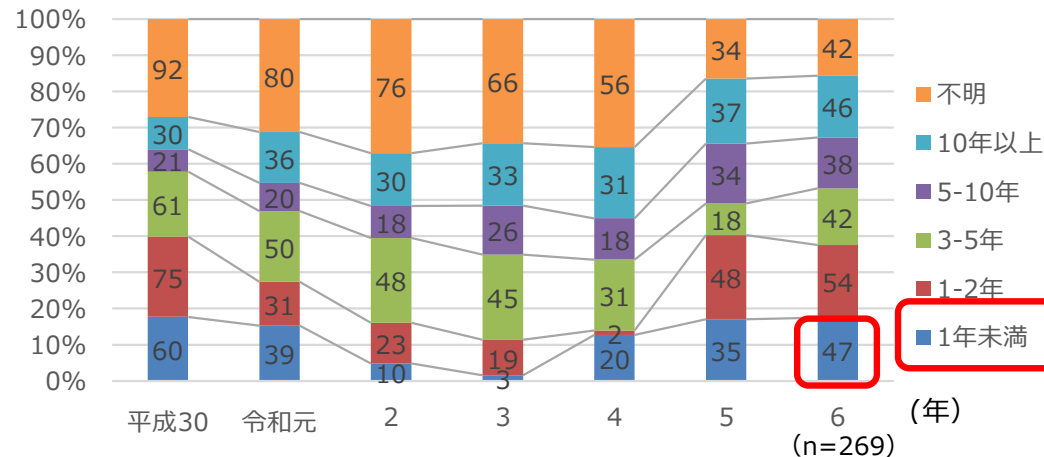
開始時期

- 調整が完了している対象国から順次開始。準備の整った3か国（フィリピン、ネパール、ベトナム）の予定は以下の通り。

	健診受付開始	結核非発病証明書提出義務付け
フィリピン、ネパール	令和7年3月24日	令和7年6月23日
ベトナム	令和7年5月26日	令和7年9月1日
インドネシア、ミャンマー、中国	開始に向け 調整中 (※開始が決定され次第公表予定)	左に同じ



(参考) 都内における外国出生患者の入国時期の推移



入国後1年未満の外国出生結核患者は、新型コロナによる入国制限を受け2020年から2021年において減少した。2024年においては入国制限解除等を受け再び増え、**47名 (17.5%)** となっている。

JPETSの情報へのアクセス権は、IOM（国際移民機関）、CJPQA（日本入国前結核スクリーニング精度管理センター）、厚生労働省、外務省、入管庁が持つ。